

人が動く、国土が躍動する。
国土交通省



みなと しみず

発行

中部地方整備局
清水港湾工事事務所

清水港事務所
御前崎事務所
下田港事務所

『静岡地域のみなとを考える市町村長懇談会』を開催

2月20日ホテルアソシア静岡ターミナルにて静岡県内の港湾所在市町村長と中部地方整備局による“静岡地域のみなとを考える市町村長懇談会”を当事務所の主催により開催しました。

本懇談会は、静岡地域と伊豆地域に分けてほぼ毎年行っており、今年度は静岡地域の富士市、清水市、大井川町、榛原町、相良町、御前崎町、舞阪町及び新居町の二市六町を対象として、各自治体の首長や



〈各港湾の現状等の報告〉

港湾担当課長にご出席いただき、中部地方整備局からは山田孝嗣副局長、岡部安水港湾空港部長ほか、静岡県土木部からは八鍬隆港湾総室長、矢嶋信孝港湾整備室長ほかが出席いたしました。

各自治体からは、各港湾の現状及び役割や要望・課題についての報告があり、それに対して山田副局長からは「各港の個性、課題を再認識した。健全な港湾づくりに技術面で協力し、要望を関係各機関に伝えていく。」と述べられました。



〈質問に答える
八鍬港湾総室長〉



〈あいさつをする
山田副局長〉



〈左：宮城島清水市長
右：池谷大井川町長〉

意見交換会において、4月1日に静岡市と合併する清水市の宮城島市長からは、清水港周辺の特区認定を訴え、「清水の成り立ちを現静岡市民にも理解してもらい、自分たちの港と思って力を入れてもらうようアピールしていきたい。」とのご発言がありました。

短い時間ではありましたが活発な意見交換をしていただき、意義ある懇談会となりました。



〈手前：木下榛原町長〉



〈左：松下相良町長
右：吉村御前崎町長〉



■ 清水港・新興津コンテナターミナル供用開始間近

昨年の清水港の輸出は前年比5.5%増の過去最高となり、輸入も4.9%増となりました。コンテナ貨物量も毎年増加しており、2000年の外貨コンテナ貨物量は全国第8位でした。

しかし、現在主に利用されている袖師・興津のコンテナターミナルでは、ヤード面積の不足によりコンテナを4~5段積みにするなどの取扱いを余儀なくされております。

また北米・欧州航路の主力となっている5万トン級の超大型船は、喫水調整をしないと入港できない状態です。

そのため、5万トン級の大型船に対応した水深と十分なターミナル面積を有する「新興津国際海上コンテナターミナル」の建設を進めてきましたが、今般、-15m岸壁本体(350m)の工事が完了し、6月に供用を開始します。

新興津岸壁は、大規模地震などの際にも背後地域の経済活動に支障が生じないように耐震強化岸壁となっています。



〈新興津岸壁に設置されたスーパーガントリークレーン〉



〈色彩計画に基づいた色で塗られた-15m岸壁〉

岸壁の進捗にあわせて、1月と2月に高さ103.7m(ブームを立てた時)になるスーパーガントリークレーンが3台設置されました。

この新興津の岸壁やガントリークレーンは「清水港みなと色彩計画」に基づいたシンボルカラーのアクアブルーとホワイトを基調に塗られています。

現在、背後のヤード部の工事も清水港管理局により急ピッチで進められています。

■ 清水港・日の出岸壁自然石舗装完成

日の出岸壁は従来、貨物専用岸壁でしたが、最近「飛鳥」や「クリスタルシンフォニー」などの大型客船や「海王丸」などの帆船が接岸したり、イベント等の開催の際には会場として利用されることが定着化してきています。

しかし、舗装面がひび割れするなど改良が必要となり、改良にあたっては本来の貨物専用岸壁だけでなく、人々が集まる清水港の玄関的役割をもたせる場所にふさわしい景観を創造できる舗装にするため、地元有識者や学識経験者等と共に検討した結果、自然石を使用し、富士山の眺望も考慮したデザインを取り入れた舗装にすることとなりました。

平成13、14年度の2カ年にわたって、240mずつ整備し、今年3月にすべての舗装が完成しました。



〈自然石を使用した日の出岸壁〉

● 舗装デザイン(真上から見た図)



富士山の方向がわかるような形のデザイン

三保の松原で行われている「薪能」をイメージできるような能舞台をモチーフとしたデザイン

■ 御前崎港・女岩岸壁本体工事完成

当事務所が平成9年から進めてきました女岩岸壁（-14m）の本体工事がこの3月に完成し、これから県による背後のヤードの整備、大型クレーンの設置などを行い、平成16年初頭には5万トンクラスの大規模貨物船の接岸が可能な大水深多目的バースとして供用開始する予定となっています。



〈海側からみた女岩岸壁〉

本岸壁は、東海地震などの大規模地震が発生した場合、住民の避難、物資の緊急輸送など海上輸送ができるように耐震構造となっています。



〈耐震構造の岸壁〉

御前崎港周辺地域では、第二東名高速道路、静岡空港など大型プロジェクトやこれらと港を直結する高規格道路の整備も進んでおり、当岸壁の完成と、多目的バースの供用開始により御前崎港は工業集積の高い県中西部の物流拠点として大きく期待されています。

■ 中部横断自動車道講演会

1月29日に勤労者総合福祉センター・清水テルサで中部横断自動車道講演会が開催され、片山所長が『清水港へのアクセス・昔・今・未来』をテーマに講演しました。



〈講演会の様子〉

清水港は昔から日本有数の港であり、“超天然の良港”であることや現在の清水港の現状を説明し、今年6月に新興津国際海上コンテナターミナルが供用開始することにより、港の物流に不可欠な背後の広域的な道路アクセスがますます重要になってくるが、将来、中部横断自動車道ができると「甲斐・諏訪・信濃へのアクセス」が向上し、清水港は更に発展すると話しました。



〈講演をする片山所長〉

港の整備と道路の整備は切っても切れない関係で、港と道の2つを充実させることによって相乗効果が生まれることを理解いただき、これからもご協力をいただきたいと思います。

■ 事務所管内の主な動き

1. 29	中部横断自動車道講演会	2. 25~26	国有港湾施設監査
2. 4	新興津岸壁3台目のガントリークレーン据付	3. 7	第3回清水港地震対策協議会
2. 17	「清水港・みなと色彩計画」洋上セミナー	3. 8	清水港紹介番組「清水の次郎長が行く」放送（静岡第一テレビ）
2. 20	静岡地域のみなとを考える市町村長懇談会	3. 14	清水港整備構想調査委員会
2. 21	清水港紹介番組「清水の次郎長が行く」放送（東海テレビ）	3. 23	日の出岸壁高質化舗装完成記念港カメラウオッチング



■ 当事務所のホームページアドレス ■
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp/index.html>

■ みなとづくり見学会

2月14日 日本海一太平洋女性みちの会(23人)



〈海上視察前に当事務所で
行われた対面式〉

■ 「清水港」と「ドリームフラザ」を見学しました

清水市を象徴する清水港を、清水港湾工事事務所のみなさまのご協力で海から視察しました。
海外の大型船舶が行き交う清水港は背後に富士山がひかえる美しい港で、歴史と風情が感じられる場所でした。

港を出入りする貨物は「みち」を利用して輸送されています。港の機能を十分に発揮するためには、やはり「みち」が必要であると実感しました。



〈交流会報告誌の清水港視察の記事〉



2月25日 小笠町立小笠東小学校4年生(55人)



〈初めて見るドルフィン
に興味津々〉



〈ライフジャケットを着て、
監督船「まさき」に乗船〉



〈ガントリークレーンの下
を通過し、大きさにビックリ〉

4月から「清水港湾事務所」に名称が変わります

清水港湾工事事務所は主に港湾の整備を行っておりますが、地元への説明、調整等の業務も重要になってきています。

しかし、「工事」という名称は単にハードの工事を直接実施する事務所のイメージが強いため、実態と名称とを一致させ、わかりやすい行政という観点からも国土交通省全体として事務所の名称を変更することになりました。

また、清水市・静岡市の合併により、所在地の表示も変わりますので併せてお知らせします。

清水港湾工事事務所
清水市日の出町7番2号



名 称：清水港湾事務所
所在地：静岡市清水日の出町7番2号



全国共通フリーダイヤル

海とみなとの相談窓口

大いによくなるみなと

0120-497-370

〔受付時間〕

9:00~12:00

13:00~17:00 (土・日・祝日を除く)



- ・海やみなとの利用に関する相談
- ・「総合的な学習時間」に関する相談
- ・みなとの構想や計画に関する相談
- ・海やみなとでの自然再生や緑地の維持管理に関する相談
- ・みなとの防災に関する相談
- ・海洋土木技術に関する相談
- その他、海とみなとに関する相談